

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) Building Disaster Resilient Community Through Healthcare Networking 《筆頭論文》	共著	2014年2月	Community Practices for Disaster Risk Reduction in Japan Chapter 6, Springer	被災後、住民の健康を維持するには日頃からヘルスケアを通じた災害に強いコミュニティネットワークづくりが重要であることを報告した。 (当該論文のページ数：91-119項) (当該論文の著者名：Isayama K, Shaw R)
2 (著書) Lessons of Health Sector Recovery on Tohoku Disaster 《筆頭論文》	共著	2014年11月	Tohoku Recovery: Challenges, Potentials and Future (Disaster Risk Reduction) Chapter 5, Springer	東日本大震災後のヘルスセクターの復興をまとめ、ネクストクライシスに向けての対策として、急性期から公衆衛生のケアや災害医療コーディネイトが重要であることを報告した。 (当該論文のページ数：51-64項) (当該論文の著者名：Isayama K, Shaw R)
3 (学術論文) Steps Toward Sustainable and Resilient Disaster Management in Japan: Lessons from Cuba 《筆頭論文》	共著	2015年5月	Int J Health Syst Disaster Manage. 2015; 3(2):54-60	キューバでは、就学時から自然伝統医学(NTM)と災害対策を学び、プライマリ・ケアの充実がコミュニティのレジリエント強化へと繋がっている。人口減少・超少子高齢社会を迎えている我国にとって、サバイバルな対策が求められる。キューバの災害対策を参考に、持続的かつレジリエントな社会を目指す必要があることを報告した。 (当該論文の著者名：Isayama K, Ono N)
4 (学術論文) カンボジア国における救急救 助技術指導の成果と課題 《筆頭論文》	共著	2015年6月	J. J. Disast. Med. 2015; 20: 76-83	日本国際救急救助技術支援会(JPR)によるカンボジア国支援の成果と課題を検討した。JPRは、2009年から陸軍に救急救助技術・災害派遣指導、消防車両・資機材の寄贈を行ってきた。隊員の基礎技術習得は確実に進んでいるが、資格化など課題が残されている。JPR支援の現況報告と展望について報告した。 (当該論文の著者名：諫山憲司, 正井潔, 播磨賢, 若松淳, 小谷譲治)
5 (発表・報告) ASEAN 地域への災害救援支 援の強化に向けて	共同	2015年11月	2015年度 第28回 年次大会 日本リス ク研究会 学術集 会	ASEAN 地域への災害救援支援の強化に向けて、各国内・地域における自然災害リスクの特徴と実態を把握した上で、自国内での日常の救援システムを充実させる必要がある。それを基に、災害医療支援体制が強化されれば、ASEAN 地域の災害救援が強靱化されることを報告した。 (発表者：諫山憲司, 正井潔, 播磨賢)
6 (学術論文) 「災生」の概念に基づくネク ストクライシスの備え 《筆頭論文》	共著	2015年12月	日本リスク研究会 誌. 2015; 25 (3): 139-144	平時から「災生」などの考え方を取り入れ、人の健康(Health) や生活(Life) をより良く継続できるようHCLPが提示され、各個人のHCLPを日々更新することが「国民強靱化」につながり、ネクストクライシスに対して強く、しなやかなレジリエンスの高い備えになることを報告した。 (当該論文の著者名：諫山憲司, 小野直哉)
7 (学術論文) 持続的かつレジリエントな社会 へ向けてわが国の災害医療 対策－キューバの自然伝統 医学と災害対策の調査研究 からの教訓－ 《筆頭論文》	共著	2016年11月	J. J. Disast. Med. 2016; 21: 179-187	キューバは、NTMと災害対策を学び活用し、プライマリ・ケアの充実がコミュニティのレジリエンス強化へと繋がっている。今後、日本の社会資源が限られ、南海トラフ地震等の甚大被害が危惧される中、持続的かつサバイバルな対策が求められることを報告した。 (当該論文の著者名：諫山憲司, 小野直哉, 柴山慧)